

楽友会通信

No.82

2020/8月 日本指笛協会発行

処暑の候、コロナが猛威を振るう中この夏は何かと不自由を感じるものの、身の安全は何物にも代え難いと自分に言い聞かせ、日々過ごしております。皆様いかがお過ごしでしょうか？

3月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の為、名古屋や沖縄では指笛活動を休止、夏に予定されていた『指笛王国おきなわイベント』も中止となりました。何を題材に記事を書いたら良いか迷ってしまいました。

楽友会の方に相談したところ、沖縄や名古屋の人達の活動に関心があるとの事。

そこで、今回は『指笛王国おきなわ名古屋支部』の発足から日頃の活動等を紹介させていただきます。どうぞ最後まで名古屋支部の活動を楽しんでください。もし、お気づきの点などございましたら、ご指摘いただくと幸いです。

1. 名古屋支部の発足

はじめは三線の合いの手が
鳴らしたーい！ ピューイ♪♪
琉球民謡三線を習っていた私は、エイサーの合いの手が吹きたくて、教えてくれる所を探していました。周りに沖縄大好きな人が沢山いるのに、吹ける人は少なかった。そこで、自分自身で指笛普及のサークルを立ち上げる事としたのです。





2. 四人で指笛サークルを結成

出身が沖縄のため、年に2～3回帰省している間に、「指笛王国おきなわ」の初心者担当をしている副国王（私の父）に合いの手を習い、鳴るようになりました。

その後、指笛王国の定例会にも参加。

沖縄県人会主催の「毛遊び」で桐原さんの指笛演奏を聴き、合いの手しかできなかった私は彼女のように演奏がしたいと思い、指笛に興味を持っていたSさん、Oさん、Mさんと私の4人でサークルを立ち上げる事となりました。

3. 指笛活動の第一歩



2012年に副国王の伊志嶺さんが「毛遊び」で指笛の演奏を披露。

沖縄人（ウチナーンチュ）にとって、エイサーの合いの手は耳慣れたものです。しかし、指笛演奏は非常に新鮮に聴こえ、会場の大勢の観衆から大喝采を受けました。

その時、私は『この祭りで指笛の体験教室を続けよう。指笛に興味を持ってくれる仲間を作ろう』と思いました。





4. サークルから名古屋支部へ (練習会は三線に合わせて指笛、カチャーシも)

2015年から会員も13人となり「指笛王国おきなわ」の垣花国王にいろいろとご助言を受け、総会を開き、本格的に名古屋支部の活動を開催。



5. 沖縄のイベントに参加して





6. 楽友会とのつながり

2014年、初めて楽友会の指笛音楽の発表会を鑑賞

垣花国王から、「今後の指笛活動の為にも発表会を観に行くといいですよ」とアドバイスがありました。

日頃は沖縄の定例練習会や名古屋支部での練習しか知りませんでした。名古屋支部での練習はピアノを弾く人がいない事もあるあって、CDに合わせての合奏がメインです。基礎練習は音階や発声、リズムにあわせた音だし等。

楽友会の発表会鑑賞は『目からうろこ』でした。田村静海先生のソプラノやメミ・グレースさんの素敵な演奏をはじめ、他の出演者の演奏や衣装など全てが目新しく感じ心惹かれました。これは是非とも楽友会の練習ノウハウを学ばなければいけないと思いました。そして、この発表会を勧めてくださった垣花国王に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その時、「いつか私たち名古屋支部でも多くの方に感動してもらえる演奏会ができたらいいなあ。いや。したいな。」と心の声がつぶやいていました。

感動の発表会





7. 年間を通しての活動

毎年4月には、三線・サンバを持ち寄っての花見会を名城公園で行っています。そこでは三線・サンバの伴奏の基、指笛演奏を行うと人だかりが出来、指笛に興味を示す人に対してミニ講習会も始めます。もちろん美味しいものを食べ美味しいお酒を飲んで花見を楽しんでいます。



定例会会場（短歌会館）で行われる文化祭への出演です。短歌会館では他のサークル（詩吟、コーラス、三線、落語等）の年一回の発表会として「文化祭」が行われます。他に年1回から2回、デイサービスセンターへの慰問にも取り組んでいます。





8. イベント



おわりに
今回、編集にあたり思うような写真がなく、物足りなさもありますが、ご了承ください。

現在、名古屋支部の会員は10名。定例会への常時参加は4～5名程度、練習も思うようにはできず、その結果人前での演奏も自慢できるものではありませんが、人の輪を大切に多くの人に「指笛」の楽しさを知ってもらう為、日頃の活動を行っています。楽友会の皆様にはこれからもご指導賜りますようお願い申し上げます。

指笛王国おきなわ名古屋支部 松本京子

